

インターバンクの声（2014 年 12 月 4 日）

ドル円を担当するディーラーに限らず、本邦の外国為替市場参加者にとって足元最大の関心事は、ドル円相場の 120 円超えかも知れない。しかし、欧米の市場参加者にとっては、2 年 3 ヶ月ぶりの安値まで下落しているユーロの今後の動きが最大の関心事だ。欧州中央銀行（ECB）の政策決定を日本時間の今晚に控え、刺激策の拡大を図る決断をしてくるとの見方が広がっているが、理事会の決定とその後の反応次第では、1.20 ドルの大きな節目に迫るような相場展開になることも否定できない。ニューヨーク株式市場では、ダウ工業平均が史上最高値を更新し続けている。堅調な米経済指標に加えてさらに原油価格の低下が続けば、米経済が完全に 1990 年代のバブルと同様の危うい異常景気になるとの懸念も出始めた。今晚の ECB 理事会、明日の米雇用統計、再来週の米連邦公開市場委員会（FOMC）と続く重要イベントの連続に、今年はクリスマス休暇に入るのがぐっと遅れる欧米ディーラーが増えることになりそうだ。

提供：SBI リクイディティ・マーケット株式会社

お客様は、本レポートに表示されている情報をお客様自身のためにのみご利用するものとし、第三者への提供、再配信を行うこと、独自に加工すること、複写もしくは加工したものを第三者に譲渡または使用させることは出来ません。情報の内容については万全を期しておりますが、その内容を保証するものではありません。また、これらの情報によって生じたいかなる損害についても、当社および本情報提供者は一切の責任を負いません。

本レポートに表示されている事項は、投資一般に関する情報の提供を目的としたものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資にあたっての最終判断はお客様ご自身でお願いします。